

## 3月を迎えて



あたたかな春の到来が感じられる3月になりました。

さて、例年1月～2月は、インフルエンザにかかる子どもが必ずいるのですが、2月末現在で、罹患の報告は0人です。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が、インフルエンザの予防にもなっています。そのため、学校を休む子どもが少なく、授業も順調に進めることができています。

このところ、新型コロナウイルスの新規感染者はぐんと減ってきましたが、まだまだ一人一人の注意は必要です。御家庭でも引き続き、手洗い、マスクの着用等の感染予防をお願いします。

## それぞれの思いを伝え合う 6年生を送る会（2月26日）

今年は密集をさけるため、体育館には5年生と6年生だけ集合し、4年生以下はビデオ出演となりました。本来ならば、6年生との思い出や感謝の念、各学年の出し物など、全ての子どもたちが同じ空間で共有するのですが、それができずに残念でした。その場で観られなかった子どもたちには、今週の昼休み、学年ごとにビデオを観せるようにします。

各学年の出し物は趣向を凝らした面白い内容でした。そして、6年生は、生演奏で『栄光の架け橋』の合奏と『糸』の合唱を披露しました。合奏曲の途中からは担任のボーカルも入り、素晴らしい出来栄でした。また、6年生から5年生へ委員会活動の引継ぎ式をし、それぞれの代表が後輩へ思いを託していました。5年生代表の終わりの言葉では、「6年生はリーダーとして役割を果たし、1年生にやさしくする姿がかっこよかった。自分たちもそれを見習い、立派な最高学年になりたい。」という決意を述べていました。

6年生にとっては、小学校生活も残すところ実質13日、これから卒業式の練習が本格化してきます。子どもたちには、残り少ない小学校生活を大切に、有終の美を飾ってほしいと思います。



出し物のビデオを観る6年生



6年生から5年生へ校旗の引継



6年生の合奏の一コマ

## 読書へのサポート、ありがとうございました！



諫早市は、読書推進を教育施策の一つとしており、本校では、年間読書一人105冊、全校では55,000冊の本を読むことを目標にしています。2月26日の時点で、105冊達成者は165名、全校では約48,200冊が読まれています。コロナ禍による臨時休業と昼休みの図書室利用制限で、1学期の貸出数は少なかったのですが、2学期以降は順調に伸びています。

さて、この読書推進には、図書ボランティア「おはなしのへや」

の方々も深く関わっていただいています。これまで、子どもたちに聞かせたい本を選び、読む練習をしたり読み聞かせの工夫をしたりと、15分間を充実させるために心を砕いていただきました。

おかげで、どの学級でも読み聞かせの時間を楽しむことができ、言葉から情景をイメージする力も付いていると思います。

先月16日には、1～3年生への今年度最後の読み聞かせがありました。終わった後に、子どもたちからは、感謝の言葉や手紙を贈り、ボランティアの方からは、記念撮影やしおりのプレゼントがありました。

4～6年生は、今月9日が最終日となります。「おはなしのへや」の皆様、1年間ありがとうございました。来年度もよろしくお願いします。



## 御来校ありがとうございました！～授業参観・学級集会～

2月15日から3日間、授業参観と学級集会を行いました。授業では、多くの学級で、これまでの教科学習の中で上達したことや総合的な学習の時間でまとめたことを発表していました。約1年間の子どもたちの心の成長や能力の「伸び」を感じていただけたと思います。



4年生の音楽科（合奏発表）



3年生の図工科（親子で彩色）



5年生の「総合的な学習」発表

## 第3回「メディアコントロール」チャレンジ

先月5日～11日に行いました、「メディアコントロール」チャレンジへの御協力ありがとうございました。提出された取組表を見ると、◎や○を付けた子どもが多かったですが、中には△や×の子どももいました。

取り組んで良かったこととして、「ユーチューブやゲームなどばかりじゃなくて、家族で会話とかもたくさんあったので、よかった」、「外遊びが増えた」という感想がある反面、「チャレンジは難しかった」という感想もごく僅かながらありました。

コロナ禍による「ステイホーム」の影響で、「大人も子どもも『ネット依存症』が拡大している」という報道を見かけます。

ゲームやネット依存症患者が集まる国立病院機構・久里浜医療センターの調査によると、感染拡大前の昨年2月に3.9時間だった1日平均のゲーム時間（オンライン）が、5.4時間になり、半数前後は「ひきこもり」や「睡眠障害」などが悪化したといえます。

ある所では、「子どもの試合に行くと、応援に来ている大人が、合間にスマホでゲームをしている」という話が聞かれました。子どもは大人の姿を見て育ちます。子どもの前で、スマホに没頭している姿を見せることは、「こんなにスマホは面白いよ。やってみない？」と態度で示しているようなものです。

ネットやゲームに没頭することで、イライラする、物事にやる気が起きないなどの問題や、ゲームの課金によるトラブルも起こっています。

メディアに依存させないためには、周りが気を付けてあげることが一番です。ネットやゲームを使うときは制限時間を決めるのはもちろんのこと、親の目の届く所で使わせることも抑止になります。

今年度の「メディアコントロール」チャレンジは終了しましたが、御家庭では、ゲームやネット以外の時間を作る取組をぜひ継続していただきたいと思います。

